

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成23年4月7日(2011.4.7)

【公表番号】特表2010-519401(P2010-519401A)

【公表日】平成22年6月3日(2010.6.3)

【年通号数】公開・登録公報2010-022

【出願番号】特願2009-551800(P2009-551800)

【国際特許分類】

C 0 9 K 5/04 (2006.01)

C 0 9 K 3/00 (2006.01)

C 0 9 K 3/30 (2006.01)

C 0 8 J 9/14 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/02 (2006.01)

F 2 5 B 1/00 (2006.01)

C 1 1 D 7/50 (2006.01)

【 F I 】

C 0 9 K 5/04 Z A B

C 0 9 K 3/00 1 1 1 B

C 0 9 K 3/30 T

C 0 8 J 9/14 C E R

C 0 8 J 9/14 C E Z

C 0 8 L 101/00

C 0 8 K 5/02

F 2 5 B 1/00 3 9 6 Z

C 1 1 D 7/50

【手続補正書】

【提出日】平成23年2月18日(2011.2.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 9 】

[0 0 5 4] 好ましい態様とその具体的な実施例を参照することにより本発明を詳細に説明してきたが、本開示及び特許請求の範囲から逸脱することなく修飾及び変更が可能であることは明らかであろう。

[本発明の態様]

1. 有効量のテトラフルオロプロペン及びプロモフルオロプロペンを含む、共沸混合物様組成物。

2. これら二成分の全重量に基づいて、テトラフルオロプロペンが約 3 0 % ~ 1 0 0 % 未満であり、プロモフルオロプロペンが約 7 0 % ~ 0 % より多い量である、1 記載の共沸混合物様組成物。

3. これら二成分の全重量に基づいて、テトラフルオロプロペンが約 4 0 % ~ 約 9 9 % であり、プロモフルオロプロペンが約 6 0 % ~ 約 1 % である、1 記載の共沸混合物様組成物。

4. テトラフルオロプロペンが、1, 1, 1, 2 - テトラフルオロプロペン、1, 1, 1, 3 - テトラフルオロプロペン、及びこれらの混合物からなる群から選択される、1 記

載の共沸混合物様組成物。

5．テトラフルオロプロペンが、1，1，1，2 - テトラフルオロプロペン、1，1，1，3 - テトラフルオロプロペン、及びこれらの混合物からなる群から選択される、3 記載の共沸混合物様組成物。

6．ブromofluoropropane が、3，3，1，1，1 - ペンタフルオロ - 2 - ブromopropane である、4 記載の共沸混合物様組成物。

7．ブromofluoropropane が、3，3，1，1，1 - ペンタフルオロ - 2 - ブromopropane である、5 記載の共沸混合物様組成物。

8．テトラフルオロプロペンが、1，1，1，2 - テトラフルオロプロペンである、6 記載の共沸混合物様組成物。

9．テトラフルオロプロペンが、1，1，1，2 - テトラフルオロプロペンである、7 記載の共沸混合物様組成物。

10．ASHRAE - 34 (2004) の非可燃性スタンダードを満たし、10 又はそれ未満の GWP を有する、1 記載の共沸混合物様組成物。

11．テトラフルオロプロペンが、1，1，1，2 - テトラフルオロプロペン、1，1，1，3 - テトラフルオロプロペン、及びこれらの混合物からなる群から選択され、ブromofluoropropane が、3，3，1，1，1 - ペンタフルオロ - 2 - ブromopropane である、10 記載の共沸混合物様組成物。

12．1 種又はそれより多い追加の成分を含み、該 1 種又はそれより多い追加の成分が、安定剤、金属不動態化剤、腐食防止剤、及び潤滑剤からなる群から選択される、1 記載の共沸混合物様組成物。

13．1 記載の共沸混合物様組成物を含む作動流体であって、冷媒、発泡剤、噴霧可能な組成物、滅菌剤、推進剤、火災抑制剤、及び溶媒からなる群から選択される、前記作動流体。

14．1 記載の共沸混合物様組成物を含む冷媒。

15．14 記載の冷媒を含む冷却系。

16．14 記載の冷媒を冷却すべき物品の近傍で蒸発させることを含む、物品を冷却するための方法。

17．14 記載の冷媒を加熱すべき物品の近傍で凝縮させることを含む、物品を加熱するための方法。

18．噴霧すべき材料と、1 記載の共沸混合物様組成物を含む推進剤とを含む、噴霧可能な組成物。

19．1 記載の共沸混合物様組成物を含む発泡剤。

20．19 記載の組成物を含む発泡剤の存在下で発泡可能な組成物を発泡させることにより製造された独立気泡フォーム。

21．発泡可能な組成物がポリウレタン、ポリイソシアヌレート、ポリスチレン、ポリエチレン、及びこれらの混合物を含む、20 記載の独立気泡フォーム。

22．1 記載の共沸混合物様組成物を含む火災抑制剤を流体に添加することを含む、流体の可燃性を低減する方法。

23．火災を 1 記載の共沸混合物様組成物を含む火災抑制剤と接触させることを含む、火災を抑制する方法。

24．滅菌すべき物品を、1 記載の共沸混合物様組成物を含む滅菌剤と接触させることを含む、物品を滅菌する方法。

25．1 記載の共沸混合物様組成物を含む発泡剤を発泡可能な組成物に添加することを含む、フォームを形成する方法。

26．発泡剤が 1 記載の共沸混合物様組成物を含む、ポリオールと発泡剤とのプレミックス。

27．交換すべき冷媒と潤滑剤とを含有する冷却系を再充填するための方法であって、次の工程：(a) 前記系における潤滑剤の実質的な部分を維持しながら、交換すべき冷媒を冷却系から除去する工程；及び (b) 14 記載の冷媒を該冷却系に導入する工程；を含

む、前記方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

有効量のテトラフルオロプロペン及びブロモフルオロプロペンを含む、共沸混合物様組成物。

【請求項 2】

これら二成分の全重量に基づいて、テトラフルオロプロペンが約 30%～100%未満であり、ブロモフルオロプロペンが約 70%～0%より多い量であり、テトラフルオロプロペンが、1, 1, 1, 2-テトラフルオロプロペン、1, 1, 1, 3-テトラフルオロプロペン、及びこれらの混合物からなる群から選択され、ブロモフルオロプロペンが、3, 3, 1, 1, 1-ペンタフルオロ-2-ブロモプロペンである、請求項 1 記載の共沸混合物様組成物。

【請求項 3】

テトラフルオロプロペンが、1, 1, 1, 2-テトラフルオロプロペンである、請求項 2 記載の共沸混合物様組成物。

【請求項 4】

A S H R A E - 3 4 (2 0 0 4) の非可燃性スタンダードを満たし、10又はそれ未満の GWP を有し、テトラフルオロプロペンが、1, 1, 1, 2-テトラフルオロプロペン、1, 1, 1, 3-テトラフルオロプロペン、及びこれらの混合物からなる群から選択され、ブロモフルオロプロペンが、3, 3, 1, 1, 1-ペンタフルオロ-2-ブロモプロペンである、請求項 1 記載の共沸混合物様組成物。

【請求項 5】

請求項 1 記載の共沸混合物様組成物を含む作動流体であって、冷媒、発泡剤、噴霧可能な組成物、滅菌剤、推進剤、火炎抑制剤、及び溶媒からなる群から選択される、前記作動流体。

【請求項 6】

請求項 1 記載の共沸混合物様組成物を含む冷媒。

【請求項 7】

冷媒を、冷却すべき物品の近傍で蒸発させるか、又は加熱すべき物品の近傍で凝縮させることを含み、該冷媒が請求項 6 記載の冷媒である、物品を冷却又は加熱するための方法。

【請求項 8】

共沸混合物様組成物を含む火炎抑制剤を流体に添加するか、又は火炎を共沸混合物様組成物を含む火炎抑制剤と接触させることを含み、該共沸混合物様組成物が請求項 1 記載の共沸混合物様組成物である、流体の可燃性を低減する、又は火炎を抑制する方法。

【請求項 9】

発泡剤が請求項 1 記載の共沸混合物様組成物を含む、ポリオールと発泡剤とのプレミックス。

【請求項 10】

交換すべき冷媒と潤滑剤とを含有する冷却系を再充填するための方法であって、次の工程：

(a) 前記系における潤滑剤の実質的な部分を維持しながら、交換すべき冷媒を冷却系から除去する工程；及び

(b) 請求項 6 記載の冷媒を該冷却系に導入する工程；
を含む、前記方法。